

# 部長登場



衛生  
部長 齊藤 乃夫

## 健康づくりに思う

厚生省が発表した「昭和五十年簡易生命表」によれば、日本人の平均寿命は男が七一・七六年、女は七六・九五年で世界のトップクラスである。昔から人生五十年といわれてきたが、実際に平均寿命が五十年を超えたのは終戦後のことである。

このような素晴らしい延びの理由の一つに、病気の蔓延が抑えられた。昔、私達の生命を脅かしたのは天然痘、コレラ、結核等で代表される伝染病が主流であった。しかしこれらは近年殆んど姿を消し、かわっていわゆる成人病といわれる脳卒中、がん、心臓病が全死亡の五八%と上位を占めるようになってきた。これらの病気が伝染病のように他人からうつされるものでなく、毎日の自分の生活の中で準備され、つくりあげられてゆくものである。このため健康を守るには、行政の努力もさることながら、個人の自覚と責任が大きくなってきていると考えられる。

例えば、全死亡の四分の一を占める脳卒中についてみれば、高血圧症、動脈硬化症が大きく関係しているが、これらの原因としては栄養、運動、休養といった毎日の生活と密着したものが考えられる。これは心疾患についてもほぼ同様のことが言えるわけである。

したがって、これらの病気がならないためには、毎日の生活を通して積極的な健康づくりに励むとともに、定期的に健康診断を受け、健康状態をチェックする必要がある。特にがんは原因がはっきりせず、成人病に共通した自覚症状の現われにくさもあり、普段からの健康診断が重要になってくる。

県では四十八年に基本構想を策定し、その中で疾病予防対策の強化として県民皆検査を目標に、検診施設の充実や検診機会の確保に努めているが、受診率は必ずしも満足すべきものとはいえない。自分の健康は自分で守るという県民の自覚を高める必要がある。

次に最近県民の関心の高まってきている救急医療にふれておきたい。幸い本県では時々マスコミをにぎわしている「たらい回し」等の不祥事は余り起こっていないが、これは医療機関の善意と医師個人間のつながりによって対処されているため、必ずしも救急対策についての体系化が確立されているわけではない。

県では五十年一月、県民健康会議の専門部会として救急医療専門調査研究会を発足させ、その答申を受けて一次、二次の医療圏を確立するため、県内十三地区に地域救急医療推進連絡会議をもうけ検討をすすめている。

解決すべき多くの問題をかかえているが、関係者の努力と協力によって一歩一歩前進しつつあるところである。この制度の効率的運用を図るためには、救急車をタクシー代りにつかうとか、昼の混雑を避けるために夜受診するなどの不心得な人達をださないよう県民の協力が必要であろう。

さて、先ほど伝染病は一応けりがついたと言ったが、西高東低といわれる結核については残念ながら本県は死亡率等で全国上位にある。幸い新しい患者の発生率は全国平均以下であるが、ここしばらくは慎重に経緯を見守る必要がある。またインフルエンザや風疹も決して油断はできない。特に妊娠初期に罹患すると胎児に重大な影響を及ぼす風疹については、流行を予測し予防接種等適切な措置をとるべく、その対策には県としても万全を期するよう努力をしている。

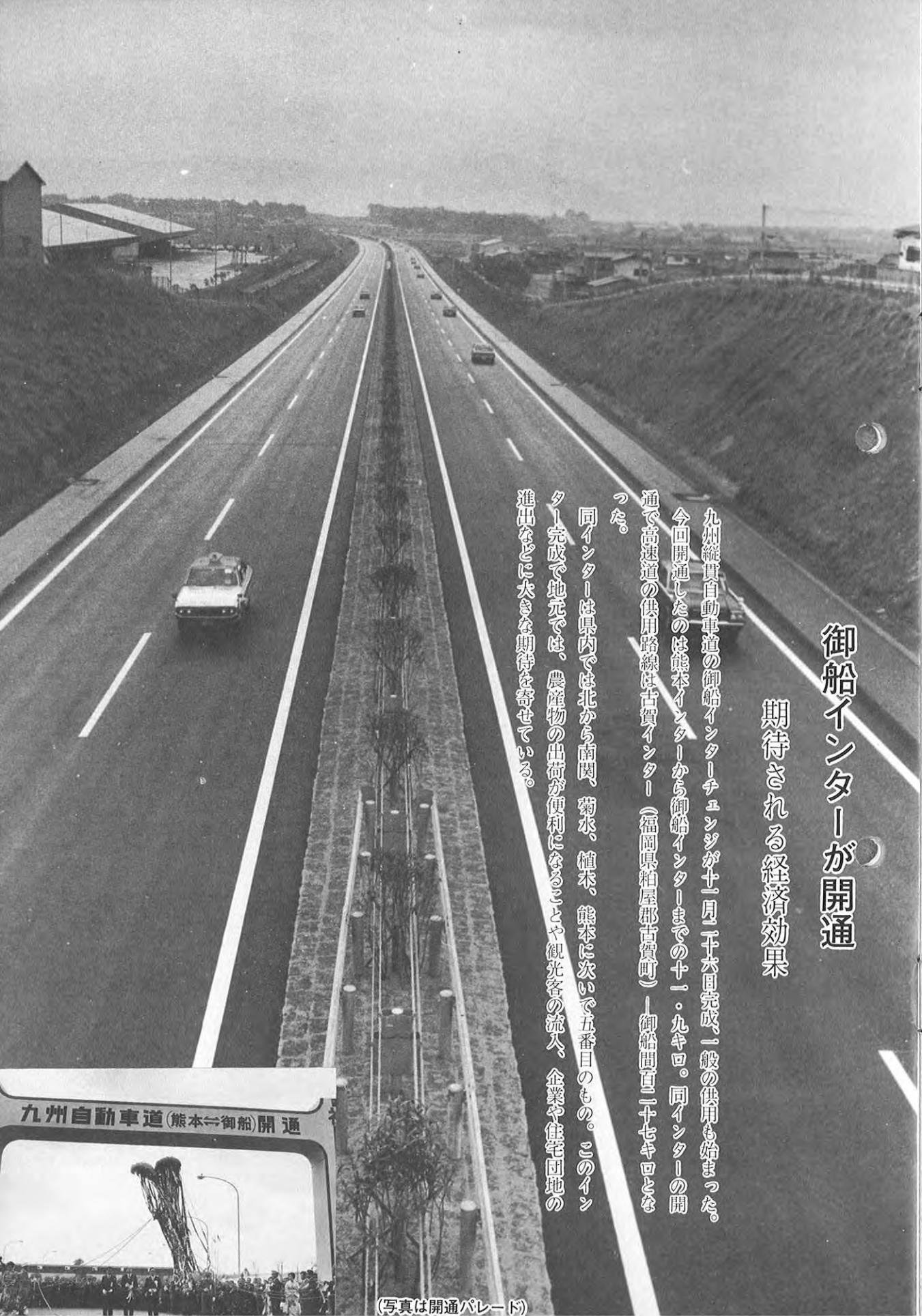
ここで死亡率の話がたので一言母子保健の問題にふれておこう。現在、乳児死亡率、妊産婦死亡率等はいずれも全国

上位を占めている。この原因については目下検討中で、説明には時間が必要だが、少くとも妊婦やその家族として地域社会の人達が、母子保健にもう少し関心を示し注意を払うならば、必ず良い結果がでるものと思われる。県としても妊婦検診、栄養指導、母親学級、保健婦の訪問指導の強化等保健所活動を中心に、さらに積極的に母子保健対策を推進するつもりである。

最後に健康管理について述べておきたい。従来の健康管理は伝染病対策が中心であったが、前述のように疾病構造が変わった現在、その管理方法も当然変わるべきであろう。

自らの生活の中でつくりあげられてゆく成人病が主流であるから、各人の毎日の生活の中で健康を守り高めるための努力と注意が必要である。健康の維持増進の面からは、自ら個人の生活に制約を加えねばならないこともある。勿論人間は健康のためだけに生きているものではないし、自由でもある。しかし、自らの勝手、気儘に由来する健康上の障害から家族や社会に大きな迷惑をかけるほどの自由は許されないであろう。

健康を守り高めることは、個人として幸福であるだけでなく、社会的な責任としても考えられるべきであろう。



## 御船インターが開通

### 期待される経済効果

九州縦貫自動車道の御船インターチェンジが十一月二十六日完成、一般の供用も始まった。今回開通したのは熊本インターから御船インターまでの十一・九キロ。同インターの開通で高速道の供用路線は古賀インター（福岡県粕屋郡古賀町）―御船間百二十七キロとなった。

同インターは県内では北から南関、菊水、植木、熊本に次いで五番目のもの。このインター完成で地元では、農産物の出荷が便利になることや観光客の流入、企業や住宅団地の進出などに大きな期待を寄せている。

九州自動車道(熊本⇄御船)開通



(写真は開通パレード)